


第 247 回 都市懇サロン レポ ー ト	with コロナ・after コロナを見据えた公共空間活用 —SAGA ナイトテラスチャレンジ等のさがデザインによる取組みを通して—		
講 師	佐賀県政策部政策チーム さがデザイン担当係長 森岡 貴之 さん	開 催 日	2021 年 2 月 9 日(火) 15 : 00~17 : 00
講 師 プロフィール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2004 年 佐賀県庁入庁 ・ 2016 年 文化課フィルムコミッション担当 ・ 2019 年 秘書課知事秘書担当 ・ 2020 年 政策チームさがデザイン担当 		
お話の概要	<p>佐賀県における公共空間活用について、SAGA ナイトテラスチャレンジを事例として説明を頂いた。</p> <p>1. 「さがデザイン」の仕組みについて ⇒ 組織のひとつであるが、県庁が取り組む「もの」「こと」を計画段階から考え、課題を認識する、コンセプトを大事にするなどの概念でもある。全部署が共有し、政策に活かしている。ハブとしても機能しており、外部クリエイターとのネットワークを築いている。</p> <p>2. SAGA ナイトテラスチャレンジの発案から実施まで ⇒ SAGA ナイトテラスチャレンジは、コロナ禍で困難に窮している飲食店に対する支援として、店先の歩道にテラス席を設置する社会実験である。ゴールデンウィーク直後に市長が指示されてから 1 週間後には参加店舗を募ることになったが、県庁、県警、地元の危機感からスピード感を持って取り組めた。</p> <p>3. SAGA ナイトテラスチャレンジ第 2 弾以降の状況 ⇒ 実施後の反応を踏まえ道路に面した店舗以外にも参加できるようにするなどの工夫を行った。またモバイルオーダーシステムを導入し、店舗を離れずに参加することができるようにもし、佐賀県下の自治体に広がっていった。</p> <p>4. そのほか佐賀県の with コロナ・after コロナを見据えた公共空間活用について ⇒ オープンエアに様々な施策を掛け合わせて佐賀の魅力的なライフスタイルの発信を行っている。また、ウォーカブルなまちづくりにも取り組んでおり、歩道の活用可能性を高める都市計画を検討しているところである。</p>		
意見交換の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会実験である理由は何か？ ⇒ 事業として実施すると成果が求められ、目標を数値化する必要がある。成果が問題となる取組ではないと考えたことから社会実験とした。 		
記録者のひとこと	<p>新型コロナウイルス感染症流行下にあって、いち早く街路を活用し、「三密」を回避した飲食店支援を打ち出した佐賀県だが、その背景に「さがデザイン」という行政の意識改革があることが見て取れた。</p> <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員 氏原茂将》</p>		